

令和6年度 都留市文化財審議会  
(第1回会議)  
資料3

---

「文化財指定業務の検討について」

## ○継続的な文化財指定業務の実施及び有効活用

- 本市の文化財指定業務は平成23年度以降停止している。本市が所蔵する資料や本市内に位置する文化財について指定することは、資料価値の認知度の向上につながるとともに、後期基本計画における「歴史文化の保護・発信」の観点からも重要な取組である。
- 今後の動きとしては、先行してミュージアム都留が所蔵（寄贈資料含む）する資料について改めて洗い出しを行い、個別具体的な調査を行う過程を経て、文化財審議会へ諮問を行い、継続的な指定業務につなげていく。

## ○令和5年度における文化財審議会委員からの意見

- 指定業務に際し、無形文化財の担い手については深刻な問題であり、現状本市では指定の無形民俗文化財は条例に種別としてあるが存在していない。平成24年に山梨県で民俗芸能緊急調査も実施され、戸沢の金山神社の神楽が調査をしている。こうしたデータに基づき指定制度を利用することで、お祭りの担い手に自分たちのお祭りの歴史や意義を知っていただく機会にもなる。
- 企画展においても単に展示をするのではなく、例えば文化財指定の調書を作成して、展示品を指定する等、組み合わせで取り組むのが良いのではないか。ただ企画展をやってお終いというのはもったいないので、「指定」という視点を入れて博物館運営を図ることが望ましい。

## ○都留市文化財保護条例

第4条 教育委員会は、市の区域内に存する有形文化財（法第27条第1項の規定により重要文化財に指定されたもの及び県条例第4条第1項の規定により山梨県指定有形文化財に指定されたものを除く。以下同じ。）のうち重要なものを都留市指定有形文化財（以下「市指定有形文化財」という。）に指定することができる。

2 教育委員会は、前項の規定による指定をするには、あらかじめ指定しようとする有形文化財の所有者及び権原に基づく占有者の同意を得なければならない。ただし、所有者又は権原に基づく占有者が判明しない場合は、この限りでない。

3 教育委員会は、第1項の規定による指定をするには、あらかじめ都留市文化財審議会に諮問しなければならない。

指定候補案件の選定と調査 ⇒ 文化財審議会へ諮問 ⇒ 翌年度：文化財審議会による答申・指定  
※2か年で1つの資料について文化財指定を行うスケジュールを想定

## ○来年度に向けて指定の対象とする資料

## 〈松竹梅鶴図屏風〉

正蓮寺の襖絵は旭岳麟が78歳の時（明治10〈1877〉年）に描いたものとされ、最後の力作と伝えられるものである。旭岳麟は正蓮寺の檀徒であり、そのような関係で襖絵を描いたとされている。1枚あたり、縦175cm、横90cm、厚さ3.5cmの大きさである。

## ○旭岳麟について

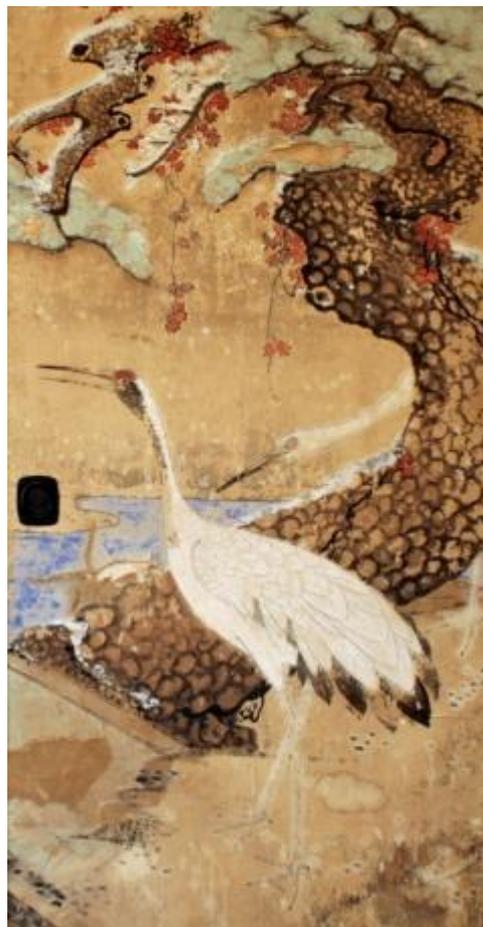
旭岳麟は、1799（寛政11）年1月10日、南都留郡盛里村（現都留市朝日馬場）に父四郎左衛門の長男として生まれた。本名は不明であるが雅号を「旭岳麟」または「旭羅山」「明哲」とした。10代の頃に僧雲室の弟子である画僧波羅密に弟子入りし、画の道に専念したとされる。波羅密の生没年は不詳だが、作品の制作年代から文化年間（1804～1818）の頃に活躍したと考えられる人物で、富士吉田市の出身といわれる。富士吉田市の大正寺山内の寿命寺（現在は廃寺）に住み、その後江戸に赴き、光林寺に住んだとされる。通説では、光林寺が紀州藩（現和歌山県）邸の隣であった関係上、波羅密は幼君の画の師範となり、後に紀州藩からの要請で現地に赴き、そこで晩年を過ごしたと伝えられるが詳細は明らかでない。

旭岳麟は20歳頃、江戸へ出て紀州侯のお抱え絵師になったと伝えられているが、この経緯についても明らかでない。おそらく江戸の光明寺の住職であった雲室や、紀州藩とつながりがあった波羅密との関係があつてのことと考えられている。

また、旭岳麟が紀州侯のお抱え絵師であったことは、旭岳麟の弟である清水周蔵氏の孫の清水登志良氏からの聞き取りや作品に「紀州森田にて描く」とあることなどから推測されている。言い伝えでは旭岳麟は鷹の画を得意とし、その評価の高さから紀州侯により、留め筆が命ぜられ、紀州侯以外には鷹の画を描かなかったという。

明治維新の後、おそらく70歳前後で旭岳麟は故郷の盛里に帰り、寺院などの依頼に応じて多くの画を残した。正蓮寺襖絵として描かれた「松鶴図」はこの頃の作である。また、「鶏と甘草」は岳麟が70歳半ばで制作した作品群とともに確認されたことから、おそらくこの時期に制作されたものと考えられる。

1878（明治11）年に小野の若宮神社において画の制作中、脳卒中で倒れ、盛里の実家に引きとられ、同年4月15日に79歳で逝去した。法名は丹青室釈精神居士で朝日馬場の実家墓地に葬られた。岳麟は生涯独身で、生家は弟の周蔵氏が継いだ。



旭岳麟《松竹梅鶴図》部分 明治前期  
紙本着色 四曲一双 175×720cm 都留市